

# 2012 全国選抜リトルリーグ野球大会規則(案)

2012 年 4 月 10 日  
主管 東関東連盟

## I 大会規則

2012 年公益法人日本リトルリーグ野球協会公認競技規則及び本大会規則に準ずる。

## II 登録及び義務

### 1 選手登録

- 1) 登録できる選手は、リトルリーグ年齢 11 歳から 4 月生まれの 13 歳までの選手で、12 名以上 20 名以内とする。但し、12 名に満たない場合はリトルリーグ年齢 10 歳選手を 3 名以内認める（小学 4 年生で 4 月生まれの選手は安全上の理由から登録を認めない）。
- 2) ベンチに入れる選手は、登録書に記載されている選手全員とする。

### 2 監督及びコーチ

- 1) 監督 1 名。
- 2) コーチ 2 名まで。
- 3) 監督・コーチは成人の者に限る。

## III 服装

- 1 選手は全員統一した服装を着用し、ユニホームの胸にリーグ名の表示のあるものに限る。なお、白色のアンダーシャツは認めない。
- 2 監督・コーチの上着は襟付きの白、ズボンは白又はグレーで統一したものを着用する。
- 3 監督・コーチの帽子は選手と同じもの、又は白色で統一したものを着用する。

## IV 用具

- 1 非木製バットには BPF（バット性能指数）1.15 の印字表記があるものを使用する。
- 2 瑕疵、変形等があるバットの使用の可否については、審判が安全上の問題を最優先に判断をする。
- 3 捕手は試合及び練習中も公認のヘルメット（耳カバー付）、プロテクター（ロングタイプ）、スロートガード付きマスク及びカップを着用する。
- 4 バットリング、マスコットバット、鉄棒、メガホンのベンチ持込みを禁止する。
- 5 野球用手袋、リストバンドの使用を許可する。但し、投手が投球するときはこれを認めない。
- 6 サングラスの使用は、選手のプレーに必要なときは認める。監督・コーチの使用は禁止するが、大会本部が許可した場合はこの限りではない。
- 7 ヘルメットの顎ひもはきちんと着用する。
- 8 グラブの紐が必要以上に長いものは認めない。
- 9 出場選手は安全確保のため、胸部保護パッドを着用が望ましい。

## V 試合の準備

- 1 ベンチは組合せ抽選の若い番号を一塁側とする。
- 2 攻守は主将により、試合当日決定する。

- 3 シートノックは後攻より7分間とするが、都合によりカットする場合もある。
- 4 試合前のブルペンでの投球練習を監督及びコーチが傍らで見てもよい。

## VI 試合の運営

- 1 延長戦は9回までとし、9回で決着しない場合はタイブレーク制を採用する。その方法は次の通りとする。
  1. 攻撃は1死2・3塁から始める。
  2. 打者は9回終了時のオーダーの3番から。走者は3塁が1番打者、2塁が2番打者とする。
  3. 投手は9回に登板していた投手が投球規定に従って引き続き投げる。
  4. 11回以降は10回終了時の継続打順とし、走者は9回と同様の方式で2人を置く。
- 2 コールドゲーム全試合4回以降10点差とする。
- 3 ベースコーチに指導者（監督・コーチ）を1人認める。
  - 1) 1塁・3塁どちらのコーチスボックスでもよい。
  - 2) 同一イニング中はコーチスボックスの移動はできない。
  - 3) 同一イニング中はコーチスボックス内の指導者の変更は認めない。
  - 4) 指導者がコーチスボックスに入らなくてもよい。なお イニングの途中の出入りは認めない。
  - 5) 任務
    - ① 打者・走者への指示に限る。
    - ② コーチスボックスから出て打者及び塁上の走者に指示した場合は、攻撃側のタイムの数に数える。
  - 6) ペナルティー
    - ① 選手及び審判員に対して威圧的な言動があった場合、1回目はベンチに戻す。
    - ② 当該者は、その試合中コーチスボックスに入れない。
    - ③ 2回目は監督の退場となる。
- 4 ベンチ内の監督・コーチは、みだりにベンチを離れることはできない。
- 5 攻撃側がタイムをとり、選手に指示する回数は1イニング1回である。なお、守備側のタイムのとき、攻撃側の監督・コーチが選手に指示する場合は回数に数えない。但し、守備側の指示より長い時間は認めない。
- 6 監督・コーチが投手に指示する場合は、マウンドで行なう。このときに捕手及び内野手が集合してもよい。監督・コーチ及び選手はスピーデーに行動する。
- 7 試合中に内野手がマウンドに集まることは規制しない。但し、試合の流れや頻度に応じて、審判員が認めないことがある。
- 8 投手のウォームアップ時に、打者などが打者席付近に近づき、タイミングを測る行為を禁止する。
- 9 走者やベースコーチなどが、捕手のサインを見て打者にコースや球種を伝える行為を禁止する。もし、このような疑いがあるとき、審判員はタイムをかけ、当該選手と攻撃側ベンチに注意を与え、やめさせる。同様の行為を再度審判員が見つけたときは、当該チームの監督を退場させる。
- 10 ネット裏又は観覧席から相手リーグの情報等を伝える行為を禁止する。
- 11 ベースコーチなどが、打者走者（走者）の触塁に合わせて「セーフ」のジェスチャーとコールする行為を禁止する。
- 12 臨時代走
  - 1) 打者及び走者が事故等で走者になれない場合、臨時代走を認める。なお、臨時代走者は投手と捕手を除く打順の遠い選手とする。
  - 2) 攻撃が終わっても前記の選手が速やかに出場できない場合は、選手交代となる。
  - 3) 頭部に投球や送球を受けたときには、必ず臨時代走を出す。
- 13 走者がヘッドスライディングをした場合はアウトとなり、ボールデットになる。但し、帰塁時の

ヘッドスライディングは認める。

- 14 不正投球（ボーク）が発生したときは走者を進塁させず、投球しない場合でもボールを宣告し、投球数に加算する。
- 15 1試合に起用する投手の数は制限しない。
- 16 試合開始、終了の挨拶のとき、監督は選手と一緒に整列し、コーチはベンチ前に整列する。

## VII 監督、コーチ、選手の退場

- 1 次の場合、大会本部及び審判員は、監督、コーチ、選手を退場させる。
  - 1) 自軍のベンチ及び応援席の中から、相手リーグ及び審判員に対し、暴力及び、暴言をはいた場合、監督及び当該者を退場させる。
  - 2) 審判員の判定及び指示に従わなかった場合、監督及び当該者を退場させる。

## VIII スピードアップ

- 1 投手はボールを受けたら速やかに投手板に付いて捕手のサインを受ける。
- 2 捕手は受けたボールを速やかに投手に返球して、投手にサインを送る。
- 3 捕手はホームプレートより前に出ないで野手に声をかける。
- 4 内野手はボール回しを定位置で行なう。
- 5 内野手は外野手からのボールを定位置から投手に返球する。
- 6 打者は打者席を外さずに、ベンチのサインを見る。
- 7 ベンチからのサインは短くする。
- 8 守備につくとき、ベンチに戻るときは、必ず走る。（選手、コーチとも）
- 9 審判員はスピーディーな試合を常に心がける。

## IX 補則

- 1 ベンチ内のプレーについて
  - 1) 常設の正規の球場は競技規則通りである。
  - 2) 仮設のベンチは危険性があるので、ボールデッドとする。
- 2 選手からのハーフスイングのリクエストを受ける。
- 3 全野手がファウルラインを越えたときに、アピール権は消滅する。
- 4 飛球をデッドライン、ホームランライン内で完全捕球したと審判が認めた場合、選手が捕球後場外に出てもアウトである。なお、野手がボールデッド地域に倒れこんだ場合はボールデッドとなり、走者に1個の進塁を認める。野手がボールデッド地域に踏み込んでも倒れなかった場合はボールインプレイとなる。
- 5 ネクストバッターズサークルは作らない。次打者はベンチの出入口付近に待機すること。
- 6 監督・コーチがグラウンドに入るときは、コートを脱ぐこと。
- 7 ホームランを打った選手を称えるときは、派手にしないこと。
- 8 選手はユニホームをきちんと着用すること。
- 9 ボールボーイ、バットボーイはグラウンド内、ヘルメットを必ず着用すること。

## X 特記事項

- 1 「全員出場の規則」と「スペシャルピンチランナー」は、採用しない。
- 2 投手の規則

- 1) 降板した投手は投手に戻れない。
  - 2) 投手が1日及び1試合に投球できるのは、次の通りとする。
    - ・ 11歳以上 85球まで
    - ・ 10歳 75球まで
  - 3) 投手が打者と対戦中に投球制限に達した場合は、その打者の打席が完了するか、又は打席中に攻守交代になるまで続投できる。
  - 4) 投手が1試合に20球以内の投球をした場合は、次の試合に投手として出場できる。
  - 5) 投手が21球以上85球までの投球数の場合は、1試合空ければ登板は可能である。
  - 6) 試合で41球以上の投球を行った投手は、その日は捕手を務めてはならない。
  - 7) 試合で4イニング以上捕手を務めた選手は、その日は投手を務めてはならない。
  - 8) 故意四球（敬遠）は投球し、投球数に加算する。
- 3 離塁の制限  
投手がボールを保持して投手板に位置し、捕手がキャッチャーボックス内で捕球体勢にあるときは離塁できない。
- 4 振り逃げの適用  
選手は第3ストライクを捕手が投球がバウンドする前に捕球できなかった場合、規則に従い進塁を試みる可以尝试。

## X I 降雨、日没、時間制限等により試合続行不能となった場合の処置

- 1 1回が終了していない場合は再試合とする。その場合、投球数を含む記録はすべてゼロとする
- 2 2回以降、試合が続行不能となり勝敗がきめられない場合は、サスペンデッドゲームとする
- 3 サスペンデッドゲームはすでに終了したイニングに関係なく、正確に一時停止された状況から試合を再開しなければならない。
- 4 サスペンデッドゲームとなり、その翌日に試合が再開された場合、中断時点で投手であり、中断までに20球以下の投球数の投手は、続きの試合においてその投手の投球数はゼロからカウントする。
- 5 中断までの投球数が21～40球の間であった場合、続きの試合においてその投手の投球数は中断された時点での投球数からカウントする。
- 6 41球以上投げた投手は規定の休息日が必要となる。  
(注) 再開されたサスペンデッドゲームの投球数は中断した試合に加算する。

以上